

わかば会誌

第16号

2021.6

巻頭言

金沢医科大学病院
病院長就任後1年を振り返って金沢医科大学病院病院長
伊藤 透

令和2年4月1日付で、高島茂樹理事長のご指名により金沢医科大学病院病院長を拝命しております伊藤透（金沢医科大学消化器内視鏡学主任教授、消化器内科講座主任事務取り扱い）でございます。日頃より、多くの患者さんのご紹介を頂き心から感謝申し上げます。また、巻頭言にご推薦頂き身に余る光栄に存じます。

病院長就任より既に1年が経過しておりますが、昨年、4月より院長を拝命したその日からCOVID-19に対する県の調整会議が始まり、会議構築に尽力されていた前北山道彦病院長から引き継ぎました。国難とも称される日本にとって、また世界にとって初めての体験であり、全世界が混乱に落とし入れられました。本来の院長業務に加えて、COVID-19対策、自分の科の診療に取り組んで参りました。当院のCOVID-19の患者さん受け入れについては、特定機能病院としての責務を果たすべく、昨年4月のCOVID-19感染の第1波より全副院長と相談の上、病棟を決定し県の調整会議の意向も受け入れ悪化の可能性が高い中等症以上の病態と致しました。また、病院全体で患者さんを診療していく方針とし、県の調整会議からの入院依頼は、まず院長が入電を受け感染対策室の飯沼教授、野田課長に連絡、同時に看護部長に連絡、次いで担当科（呼吸器内科、腎臓内科、内分泌・代謝科、高齢医学科）をそれぞれの教

授に連絡し決定させて頂いております。この方式は他に類を見ない方法で、病院全体で患者さんを診ていくという強い信念に基づくものであります。第4波の現在、COVID-19の変異株が蔓延し、若年でも重症化し挿管、透析となる病態が増加しており、呼吸器内科の医師に負担がかかっている状況です。病院運営会議、病院部科長会、病院連絡会で外科系は手術に専念して頂き、内科全科でのチーム制で対応していく方針とし体制を纏めております。

一方、当病院は地域貢献の一環として、包括連携協力に関する協定を締結させて頂いている内灘町からの依頼で高齢者のワクチン接種の医師、看護師、薬剤師の派遣を行っております。今後、穴水町、宝達志水町のワクチン接種の応援、県健康福祉部の依頼である金沢市の大規模接種会場への医師等派遣の応援にも応需させて頂く予定であります。

未だ新型コロナウイルス感染の蔓延が終息の見えない中で、日常の安全安心の医療の提供ばかりでなく、新型コロナウイルス感染の患者さんの診療、コロナワクチン接種の応援など業務は多角化し職員は緊張感を強く感じております。しかし、患者さんをご紹介頂く先生方に少しでもより良い環境をご案内すべく、日々全身全霊の精神で地域医療に貢献して参りたいと存じますので宜しくお願い申し上げます。

河北郡市町での 新型コロナウイルスワクチン接種の現状

≡かほく市でのコロナワクチン接種体制、現状報告

久保医院 久保 隆之

かほく市は現在のところ七塚健民体育館1箇所です。皮膚科、整形外科、眼科、二ツ屋病院、高松病院まですべての医療機関の協力があり大変助かっています。1チーム医師1名+看護師2名、合計20チームで水曜、木曜、土曜は午後3チーム体制、日曜は午前午後を4チーム体制で対応。

行政より健康福祉課の職員、及び他課の職員45人～55人を動員、委託業者のスタッフ約15人を合わせて総勢70～85人で会場運営を行っています。市の職員とは事前に何度も打ち合わせをして当方の要望通りの会場設営、十分なスタッフを配置して頂き感謝しています。モデル地区として4月18日（日曜）より接種を開始、特に混乱もなく予定していた490人の接種は余裕を持って終了することができました。会場が広くて高齢者には負担かなと危惧していましたが、スタッフの気配りや介助、車椅子も準備されており足の不自由な方も問題なく接種することができました。今後、ワク

チンが安定供給されれば日曜、祝日は1日800人、平日は300人の接種を行う目標です。7月からは65歳未満の方も並行して接種できる見込みです。個人的には個別接種の必要性をあまり感じないのですが、8月から個別接種も始める予定です。

かほく市は医師会と行政との連携が密であり、日頃より医師会の要望を多く受け入れて頂いています。我々、開業医はコロナの診療には直接携わることはできませんので、ワクチン接種を通じて少しでも地域医療に貢献できればと思います。



≡内灘町における新型コロナウイルスワクチン接種の現状（5月20日時点）

紺井医院 紺井 一郎

内灘町では、役場（保健センター）と医師会、金沢医大が協力してゴールデンウィーク明けからワクチン接種を開始しました。まず、老人施設の入居者および職員のワクチン接種を5月6日より開始しました。後期高齢者（75歳以上）の接種を優先して、7日からは町内の医療機関での個別接種が開始されています。町内7医療機関で週に約400人が接種予定となっています。集団接種は、金沢医科大学に多大なご協力を頂き、9日日曜日より開始しました。町役場にある町民ホールで、日曜日と木曜日の週2回、1日200名の接種が予定されています。日曜日には町内の医師2名と医科大チームが共同でワクチン接種を担当しています。木曜日は医科大チーム単独で接種をお願いしています。金沢医科大学病院の伊藤透病院長や臨床感染症学教授の飯沼由嗣教授には大変お世話になっております。また、退職されて町内在住の小西一朗医師や世良憲正医師にもご協力いただいております。看護師も医科大や町内医療機関に勤務の看護師に加えて、訪問看護ステーション「OHANA」にもご協力いただいております。内灘町では、ワクチン接種の予約は、個別接種も含め

てコールセンターが一括して担当しています。75歳以上の後期高齢者の接種を先行しましたが、それでも「電話が繋がらない」、「かかりつけ医で打ってもらえない」などの苦情がでています。また、ワクチン接種希望者も約80%と当初の予定を大幅に上回っています。65歳以上75歳未満の方への接種券は6月初めに発送予定になっています。内灘町の65歳以上の高齢者は、全体で約7,500人です。この方々のワクチン接種を7月末までに完了するために、町では集団接種件数と個別接種件数の見直しや、夜間の集団接種について検討中です。また、8月上旬には65歳未満の一般接種を開始する予定です。

また、内灘町は、金沢市と境界を接しているため、金沢市から町内のクリニックに通院している方も沢山いらっしゃいます。内灘町以外の市町村から内灘町での個別接種を希望する場合、コールセンターでの予約となりますが、現状では予約枠をはるかに超える需要があるため、難しいようです。いずれにしてもワクチンが十分に供給されるようになれば、接種体制をさらに充実して対応していきたいと思っています。

津幡町のワクチン接種

町内の医療機関の方々および、町のワクチン担当の方々におかれましては、日常診療や業務にお忙しいところ、ワクチン接種事業にご協力いただき、誠にありがとうございます。国からのスケジュールもなかなか把握できない中、接種を始めることができ、ようやくスタートラインに立てた気持ちです。

津幡町では、3月25日に集団接種のシミュレーションを行い、接種の流れの確認を行いました。集団接種は、まず65～74歳の高齢者を対象に、5月8日より津幡町福祉センターで開始しました。その後5月24日より、全高齢者を対象に各医療機関での個別接種が本格的に開始となりました。現在16の医療機関に参加していただいておりますが、随時参加を募集しておりますので、よろしく願いいたします。集団接種は、医師2人、看護師4人で木曜日午後、土曜日午後、日曜日午前午後の週4回行っております。6月の時点で、

山崎外科胃腸科医院 山崎 圭介

集団接種、個別接種ともに週に約800人の接種を予定しており、7月末までに高齢者接種対象人口約9500人が接種完了の予定となっております。

その後一般接種が始まりますが、コールセンターに繋がらない、インターネットでの予約ができないなど、高齢者接種での予約方法のあり方や課題をもとに、よりスムーズに接種を進めていけるよう準備してまいります。

ワクチン接種がコロナ対策の切り札となることが期待されております。医療従事者が自粛要請を破り、パーティーに参加して謝罪することのないように、今後も気をひきしめていきたいと思っております。ご協力どうぞよろしくお願いいたします。



ご挨拶

公立河北中央病院整形外科 豊田 誠



はじめまして、いつのまにか公立河北中央病院の整形外科で働いている豊田誠と申すものです。「公立?」「津幡なんか病院でしょ?」「豊田誠?知らない」「青木裕先生か上野琢朗先生じゃなかった?」という医師会の緒先生方の声が聞こえてきそうです。申し訳ございません、1年以上前に交代しておりました。あらためてご挨拶とともに自己紹介させていただきます。

私は平成10年に金沢大学を卒業し、同大学整形外科(富田勝郎教授)に入局しました。大学、関連病院で勤務後、令和2年4月に河北中央病院に着任しました。生まれは大阪で高校までの18年間を大阪で過ごしましたが、今やこちらでの生活の方が長くなりました。能登半島出身の妻と、中学生の長男、小学生の次男の家族4人で金沢市内に住んでいます。金沢市内から津幡までの片道20kmほどの通勤中はずっとテレビでニュースを聞いています。おかげで専業主婦の妻よりも詳しいくらいです。金沢大学では山岳部に所属していました。金沢大学医学部の山岳部には立山診療班というボランティア団体があり、学生時代からボランティアとして山小屋での山岳診療に参加していました。今年も夏山シーズンには立山室堂の立山診療所にボランティア医師として、当院の看護師2名とともに参加する予定です。

整形外科医として最近はおっぱら骨粗鬆症治療に力を入れています。日本では高齢化の影響で脆弱性

骨折が増えています。整形外科医になりたての頃は明けても暮れても骨折治療に邁進していましたが、何度も骨折を繰り返す患者さんに出会い骨折予防の重要性に気づかされました。当院にはX線骨密度測定装置(DEXA)がありますので、骨粗鬆症の治療経過を骨密度の値として患者さんに示すことができます。近年の治療薬の進歩に伴い昔は年単位でしか増加しなかった骨密度が月単位で増加するようになりました。「骨密度が上昇して骨が強くなったよ」と患者さんに伝えると皆さんとても喜ばれます。現在院内では医師だけでなく理学療法士、看護師、薬剤師、管理栄養士とともに骨粗鬆症治療チームを立ち上げ、骨粗鬆症リエゾンサービス(OLS)を提供できるよう準備を進めているところです。

最後になりますが、冒頭でご紹介させていただいた様に令和3年4月1日から病院の正式名称が、津幡町国民健康保険直営河北中央病院から公立河北中央病院に変わりました。この変更の意味を私なりに解釈すると、河北中央病院に務める私たちは津幡町だけでなく広く河北郡市の医療に貢献しますという決意表明なのだと思います。これからも微力ながら河北郡市の医療に尽力させていただきますので、公私にわたりご指導を賜りますようお願い致します。

金沢医科大皮膚科学講座

教授 清水 晶



皆様初めまして、2021年4月に群馬大学皮膚科学教室より金沢医科大学皮膚科学講座に着任いたしました清水晶と申します。河北郡市医師会の皆様には、日頃から地域連携を通し大変お世話になっております。

私は、NHK大河ドラマ「青天を衝け」でおなじみの埼玉県深谷市出身で平成8年に富山医科薬科大学（現富山大学）を卒業後、群馬大学皮膚科学教室へ入局し、25年間にわたり皮膚科医として研鑽を積んでまいりました。金沢医科大でも引き続き皮膚科学の診療を担当させていただきます。

前任地では皮膚科一般の診療を幅広く行ってまいりました。特に脱毛症（円形脱毛症、生まれつきの脱毛症など）、尋常性疣贅（いわゆるイボ）の診療では近県からも多くの方に受診していただいております。また、前任地の専門が膠原病であったため、膠原病の皮膚症状も多数経験がございます。今後は河北郡市医師会の皆様のお役にたてるよう精一杯精進いたしますので宜しくお願い申し上げます。ご存知の方も多いと思いますが、金沢医科大学皮膚科は真菌診療（みずむし、たむしなど）で全国的に有名です。こちらの診療も前任の望月隆名誉教授にご指導頂きながらさらに発展させていきたいと考えております。

着任後、当教室のスタッフに温かく迎えてもらい、新しい仲間たちともに働けることに大きな喜びを感じています。大学時代は北陸生活でしたが人生の大半は関東でしたので気候も随分違います。趣味は歴史であり、読書や時間があれば妻と史跡巡りを楽しんでおりました。群馬県での生活はそれなりに充実しておりましたが、魚介類が好物の私にとりましては海が恋しい日々でした。これからは勤務の合間になりますが石川県の歴史を学び、豊かな食文化も堪能したいと考えております。早朝の散歩をここ5年は欠かしたことはなく、こちらにきても継続しています。ツバキや桜が咲きウグイスがさえずる林道を歩きながら、新緑の季節の内灘周辺の環境の良さに驚いております（冬はどうなるでしょうか）。留学していたロンドンや学会で訪れた北欧などの自然と文化が調和した環境を思い起こします。

このような豊かな環境の中、今後はご紹介いただいた患者さんの話をよく聞き、どんな症状であっても受診した甲斐があったと思っていただけるよう心掛けて参ります。これからも大学病院としての高い診療レベルを維持しつつ、地域に根ざし少しでもお役に立てるように努めて参ります。河北郡市医師会の先生方に置かれましては、病診連携を介しこれまで通りご紹介いただければ幸いです。今後もご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

金沢医科大学医学部神経内科学

教授 朝比奈 正人



2020年4月1日付で金沢医科大学医学部神経内科学教授を拝命いたしました朝比奈正人です。

私は静岡市の生まれで、県立静岡高校を卒業後、滋賀医科大学に入学いたしました。1987年に同大学を卒業し、神経症候学の大家である平山恵造教授が主宰する千葉大学神経内科に入局いたしました。神経内科医のバイブルである平山先生の著書「神経症候学」を傍らに、神経診断学を中心に神経内科学を研鑽し、平山先生が退官される直前の1995年に、PETを用いてパーキンソン病の認知機能障害にアセチルコリンが関与していることを明らかにした研究で学位を取得いたしました。

次の教授で神経因性膀胱の研究で有名な服部孝道先生に助手を任命され、膀胱機能にも関連する自律神経の研究をするよう命じられました。何も知らない領域で研究は手探りでしたが、2002年のロンドンのQueen Square (QS) への留学が転機となりました。QSは大英博物館から東に少し歩いた所にある小さな広場の名です。神経研究所 (Institute of Neurology)、国立神経病院 (National Hospital for Neurology and Neurosurgery) などの神経関連施設が広場を取り囲み、この研究・医療機関群をQSと呼びます。University College of London (UCL)の関連機関でもあります。ここで自律神経研究の世界的権威であるChristopher Mathias先生の指導を受け、研究を進めることができました。私は英国国立神経病院で自律神経機能検査を行っていたのですが、患者がネクタイ・スーツで検査を受けていたので外来患者と思っていたら、入院患者で驚いた思い出があります。日本では入院患者は日中も寝間着や部屋着で過ごされる方が多いのに、考え方が違うものなのだなと感じました。昼休みは職場に近い大英博物館を散策し、料理好きなので、毎晩、イギリスの食材で料理を作っていました。帰国後も千葉大で教官として働いておりました。

千葉県の山武医療圏には三次救急を担う病院がなかったため、2014年に特任教授として千葉大学が共同運営する地域基幹病院の立上げに参加しました。千葉県、地元自治体と共同の運営でしたが、運営の主体である地元自治体に病院経営の経験がなく、大変な作業でした。

病院の運営が軌道に乗った2016年に、服部前教授が理事長を務める医療法人に赴任し、船橋市で脳神経内科専門クリニックの経営を行いました。ここでは数多くのパーキンソン病、認知症、頭痛、てんかん、めまいなどの患者を治療しました。

これらの経験を基に、皆様のご指導ご鞭撻を賜りながら、地域医療に貢献する所存です。

金沢医科大学脳神経外科

講座主任 林 康彦



令和3年4月1日に金沢医科大学脳神経外科講座主任を拝命致しました林 康彦と申します。私は平成3年に金沢大学を卒業して、当時山下純宏先生主催の脳神経外科教室に入局致しました。同8年に「試験管内血液脳関門モデルの作成」のテーマにて第2生化学教室で学位を修得、同10年に脳神経外科専門医を取得致しました。同12年に金沢大学集中治療部・救急部に出向した後、同13年に脳神経外科の助教として教室に復帰致しました。同15年よりCushing病の世界的大家であったOldfield先生主催の米国国立衛生研究所脳神経外科部門に2年余の間、臨床面では下垂体腫瘍手術を学び、基礎面では悪性脳腫瘍における水チャンネルの発現と機能に関して研究を行ってまいりました。同17年に当時は濱田潤一郎先生主催の脳神経外科学教室に復帰した後、下垂体腫瘍や小児先天性奇形、水頭症などを中心にして神経内視鏡を用いた治療を行ってまいりました。下垂体腺腫や頭蓋咽頭腫などの間脳下垂体腫瘍に対する手術は600例を超える経験があり、さらに神経内視鏡を用いた手術も1100例余の実績があります。平成32年に金沢医科大学に特任教授として着任した後も、これらの治療を中心に診療を行ってまいりました。

自分は海外留学にもアメリカ国内の名所を訪れたり、メジャースポーツの観戦に行きましたが、学会や旅行で海外の様々な国々に行くのが好きで多くの外国に行きました。しかし、現在のコロナ禍の状況でそれもストップしておりかなりストレスになっています。今後の診療としては、自分の専門分野である間脳下垂体疾患をはじめとした脳腫瘍や小児先天奇形などでの手術において、内視鏡だからできる新たな局面を切り開いて、治療困難と言われる脳深部の腫瘍の治療成績を向上させていきたいと思っています。また、今後は顔面痙攣などの微小神経血管減圧術や眼窩内腫瘍などに対してもその適応を拡げて神経内視鏡の有効な治療を追求していくつもりです。また脳腫瘍以外の脳神経外科領域の重要分野である脳血管障害においても血管内治療による超急性期の血栓回収による血行再建や慢性期における脳梗塞予防のための頭蓋内外動脈吻合を積極的に行い、頭部外傷でもモニタリング管理を行って救急医療に迅速に対応して、地域医療に可能な限り貢献したいと考えています。今後とも脳神経外科として皆様のお役に立てるよう精進を重ねていく所存であります。

金沢医科大学腎臓内科学 教授

講座主任 古市 賢吾



2021年4月より、横山仁教授の後任として、金沢医科大学腎臓内科学講座主任を拝命致しました古市賢吾と申します。河北郡市医師会の先生方には、いつも患者様を紹介頂き大変感謝申し上げます。ネフローゼ症候群や腎不全症例を中心に、連携させて頂けている事、大変ありがたく思っております。

私は、金沢大学を平成5年に卒業し、第一内科に入局後に腎臓病学の勉強をさせて頂きました。米国NIHのNIAID (National Institute of Allergy and Infectious Diseases)に留学させて頂き、急性腎障害と腎修復に関して、ケモカインやサイトカインといった分子を標的に研究を行って参りました。私がNIAIDに留学した頃は、炭疽菌を用いたバイオテロに関連して、NIAIDが注目され、研究も盛んに行われておりましたが、昨今のCOVID-19でも注目されています。時々テレビなどのメディアでも見かけるFauci博士は、私が留学中もNIAIDのDirectorであった方で、冷静で落ち着いた話しぶりは相変わらずと思っております。帰国後は、金沢大学血液浄化療法部で約10年仕事をさせて頂きました。腎不全に対する血液透析、腹膜透析および腎移植は勿論の事、種々の難治性疾患に対するアフレルシス療法もさせて頂きました。本学においてもこういった症例に対応出来るように進めて参りますので、どうぞお気軽に御相談いただければと存じます。また、糖尿病性腎臓病の病期分類の改訂や組織学的評価に関する研究にも関わってきました。糖尿病性腎臓病は腎不全の原疾患としても最も重要な疾患であり、腎不全治療と共に、腎不全に至らせない治療や研究をさらに進めていきたいと思っております。

本学には、2年前の4月より赴任させて頂き、横山仁教授のもとで仕事をさせて頂いておりました。医師会の先生方の中には、これまでも大変お世話になった先生方も多くおられ、いろいろな機会に声をかけて頂きありがとうございます。このたび講座主任を拝命し、大変気の引き締まる思いであります。これまでの金沢医科大学腎臓内科の伝統を大切に、教室員の先生方と共に、腎臓を中心とした全人的な医療を提供出来るようにしていきたいと思っております。医師会の先生方には、今後ともどうぞよろしく御指導頂きますようお願い申し上げます。

1. 理事会・総会

令和3年1月16日(土) 令和2年度新年会 中止
 令和3年1月20日(水) 第10回理事会
 令和3年2月17日(水) 第11回理事会
 令和3年3月17日(水) 第12回理事会

令和3年4月21日(水) 第1回理事会
 令和3年5月19日(水) 第2回理事会(WEB)
 令和3年6月5日(土) 令和3年度定時総会(WEB)
 令和3年6月16日(水) 第3回理事会

2. 学術研修会

河北都市医師会学術講習会

令和3年1月13日(水)
 演題：「糖尿病性腎臓病の最近の話題」
 講師：金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学
 准教授 北田 宗弘 先生

令和3年2月3日(水)
 演題：「腎障害症例における貧血の病態と治療」
 講師：金沢医科大学 腎臓内科 特任教授
 古市 賢吾 先生

令和3年3月24日(水)
 演題：「うつ状態を呈するさまざまな精神疾患の
 診断と治療についてートリンテックスの
 使い方を交えてー」
 講師：金沢医科大学 精神神経科学 講師
 長澤 達也 先生

令和3年4月14日(水)
 演題：「知っておきたい肺がんの最新治療
 ：手術(ロボット、胸腔鏡)放射線、抗がん剤、
 免疫療法、分子標的治療薬」
 講師：金沢医科大学 呼吸器外科学 教授
 浦本 秀隆 先生

令和3年5月12日(水)
 演題：「運動器疾患の健康を考える
 ～神経障害性疼痛と骨粗鬆症～」
 講師：厚生連高岡病院 副院長・整形外科
 診療部長 講師 鳥島 康充 先生

令和3年6月9日(水)
 演題：「肥満・メタボリックシンドロームと
 尿酸代謝異常病態と治療」
 講師：大阪市立大学大学院
 医学研究科代謝内分泌病態内科学 講師
 藏城 雅文 先生

令和3年6月29日(火)
 演題：「ACO/COPDに対するTriple製剤の有用性
 ～当院における使用経験を踏まえて～」
 講師：金沢大学附属病院 呼吸器内科 助教
 大蔵 徳幸 先生

編集後記

皆様のご協力のお陰で今回もわかば会誌を発行できました。巻頭言には金沢医科大学病院院長の伊藤先生から御寄稿戴きました。河北中央病院の豊田先生には遅ればせながら自己紹介をお願い致しました。金沢医科大学では今年度には多くの新任教授が就任されました。全員の方に寄稿をお願いしたかったのですが、紙面の都合上、4名の方々に寄稿していただきました。依然として猛威を振っている新型コロナウイルス感染ですが、医療従事者への新型コロナワクチン接種はほぼ終わり、ようやく高齢者対象のワクチンの接種が集団、あるいは個別で始まっています。各市町の担当の先生方にはワクチン接種の現状などを報告戴きました。今後も一般の方々にもスピーディーに接種が進み、新型コロナウイルス感染が抑制される事を期待したいと思います。



会誌編集委員

石倉 直敬	久保 隆之
木嶋 保	藤井 亮太
藤田 拓也	佐藤 宏和